



## 第108回

## 人身取引被害者

## 若者世代へのアプローチ

青少年活動・中元博美

みなさんは人身取引という言葉にどんなイメージを持っているだろうか。発展途上国の貧しい家庭から売られた女の子？奴隷のように重労働をしている人たち？これもまた人身取引の一つである。これだけ聞くとまるで私たちとは関係のない世界の話に聞こえないだろうか。

## ◇みんなの問題、世界中の問題

人身取引とは強制売春や強制労働などで、労働力や金銭等の搾取を目的に暴力や脅迫を行使して人を売買することである。

日本で強制売春の被害に遭った外国籍女性に何人も出会った。彼女たちはだまされ、すべての尊厳と権利を剥奪され、何十年も売春を強要させられていたのである。彼女たちを買ったのは「日本人」である。

また、ポルノ産業が盛んな国の一つに日本の名がよく挙がる。ある日本人の被害者女性はモデルの勧誘だとだまされ、脅され、アダルト動画に出演。そしてインターネットで動画を拡散されてしまったという。彼女たちを買ったのは「世界中の人」である。

何十年も被害に遭い続けている人もいれば、情報のあふれる現代社会に流されて簡単に被害に遭ってしまう若者もある。人身取引の問題は日本で、世界中で起こっていて、誰しもが関わる可能性のある身近な問題であるということを私たちは知っておかなければならない。

## ◇安心・安全な場所

タイ北部にあるソクウェー女性保護・職業訓練センターは、人身取引被害者や虐待被害・素行不良・孤児などの社会的問題を抱えた18歳以下の女性が保護される福祉施設である。安心・安全な場所の提供をはじめ、衣食住、メンタルケア、医療支援、社会復帰のための職業訓練や教育、また、人身取引被害者のための法律支援などの役割を担っている。私はここで入所者のメンタルケア、情緒の安定・回復を目指したアクティビティの企画実施や社会復帰のためのワークショップを開催している。



居心地の良い施設を目指して行ったマッピングワーク

## ◇二次被害に遭わないために



自己肯定感を高めるためのピクチャーワーク

彼女たちの中には被害者意識があまりない人もいる。稼ぐために、また寂しさから逃れるために望んで売春をしている。だから相手を恨まないし、むしろ感謝している、私は被害者ではない、というのである。子どもが親に虐待されても親を愛し続け離れられない、というケースに似ている。それを理由に彼女たちが身体的にも精神的にも傷ついていいのだろうか。私は彼女たちのことを深く知るたびに、退所後再び被害者になってしまうのではないかと不安になるのだ。

そこで、彼女たちが二次被害に遭わないために、人身取引の問題や性の知識を学ぶことで危険性を知り、自分の身を守る術を身につけてもらおうとさまざまなワークショップを開催した。その中で彼女たちはいろいろなことに気付き、学んでくれた。「自分と同じ様な背景で売春をしたことで、暴力を受けたり、病気に感染して大変な目に遭ったりした人がある」「この仕事以外にも楽しい職業はたくさんある。勉強を頑張ることで仕事の選択肢が増える」と。

彼女たちにとってこの施設での時間と経験がつかく苦い思い出ではなく、将来のためのステップアップであったと、いつか気付いてくれることを願って活動に励む毎日だ。

【筆者紹介】中元博美（なかもと・ひろみ）タイの児童養護施設にて人身取引問題の被害者保護、啓発活動に従事。2014年1月よりJICA青年海外協力隊員としてタイに赴任。ソクウェー女性保護・職業訓練センター勤務。千葉県市川市出身。1986年7月生まれ。